2018年度 決算説明会

2019年5月24日

あすか製薬株式会社

証券コード：４５１４

ASKA Pharmaceutical Co., Ltd.

2018年度
連結決算概要

あすか製薬株式会社
専務取締役　丸尾　篤嗣

損益計算書（連結）

単位：百万円	2017年度	2018年度	増減額	増減率
売上高	48,944	46,706	△2,238	△ 4.6%
売上原価	30,060	27,816	△2,243	△ 7.5%
売上総利益	18,884	18,890	5	0.0%
販売費及び一般管理費	16,060	17,107	1,047	6.5%
営業利益	2,824	1,782	△1,041	△ 36.9%
経常利益	3,073	1,980	△1,093	△ 35.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,388	1,744	△ 644	△ 27.0%

事業別売上高（連結）

単位：百万円

	2017年度	2018年度	構成比	増減額	増減率
医療用医薬品	44,127	41,757	89.5%	△2,370	△ 5.4%
動物用医薬品	4,572	4,669	9.9%	96	2.1%
その他	243	278	0.6%	35	14.4%
合計	48,944	46,706	100.0%	△2,238	△ 4.6%

主要製品売上高

単位：百万円

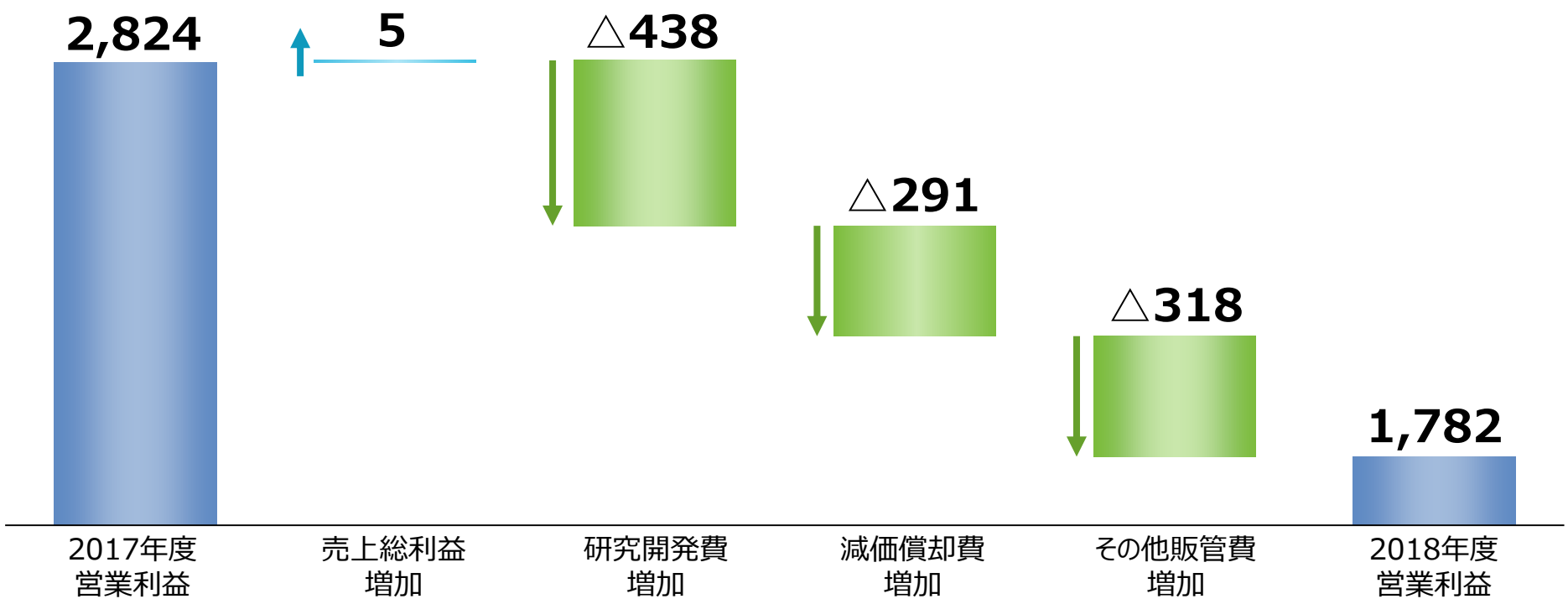
領域	製品		2017年度	2018年度		2019年度	
			実績	実績	前同比（%）	計画	前同比（%）
内科	※1、※2	カンデサルタン類	13,226	11,924	90.2%	13,600	114.1%
		チラーヂン	4,912	5,657	115.2%	6,982	123.4%
		リフキシマ	1,062	2,478	233.3%	3,893	157.1%
		リピディル	4,292	1,803	42.0%	1,208	67.0%
	※1	アムロジピン	1,616	1,390	86.0%	1,525	109.7%
		メルカゾール	1,096	1,159	105.7%	1,338	115.5%
産婦人科		ノルレボ	1,208	1,294	107.1%	664	51.3%
		メノエイド	736	882	119.9%	1,051	119.1%
		アンジュ	894	835	93.4%	1,000	119.8%
	※1	フリウェル	–	668	–	2,010	300.9%
		ルテウム	416	392	94.3%	483	123.0%
		レルミナ	–	363	–	1,981	545.9%
泌尿器科	※1、※3	リュープロレリン	4,164	4,167	100.1%	4,524	108.6%
	※1	ビカルタミド	1,576	1,221	77.5%	1,058	86.6%
		プロスタール	710	410	57.8%	395	96.2%

※1 ジェネリック医薬品
※2 配合剤を含む
※3 1.88mg製剤は産婦人科適応のみだが、3.75mgと合算

2019年度から「収益認識に関する会計基準」を適用

営業利益増減分析（対前同）

単位：百万円



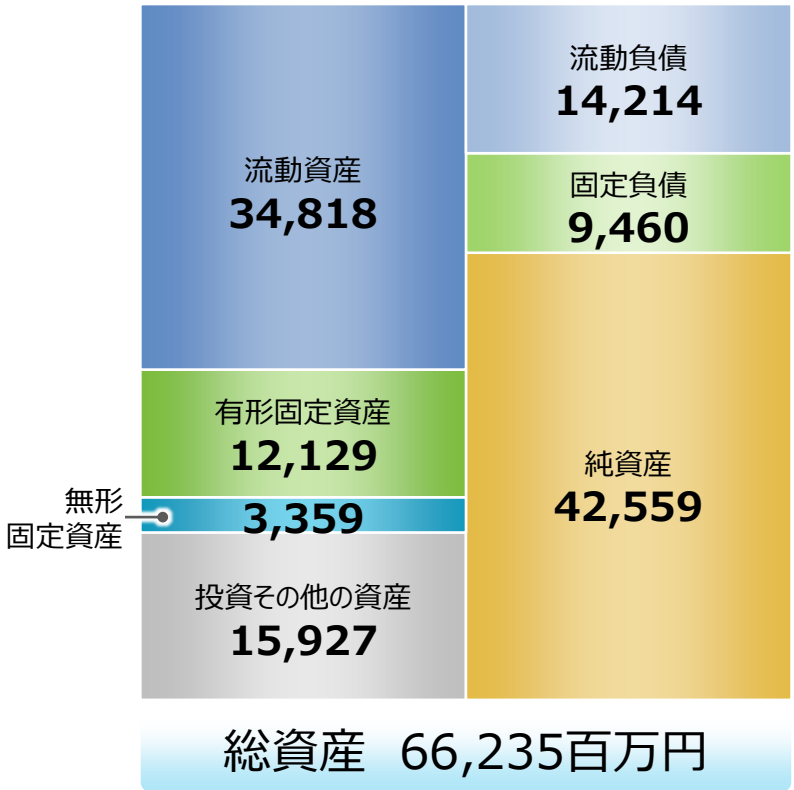
要因分析

- 研究開発費を中心とした販売費及び一般管理費の増加により、営業利益は減少。

貸借対照表（連結）

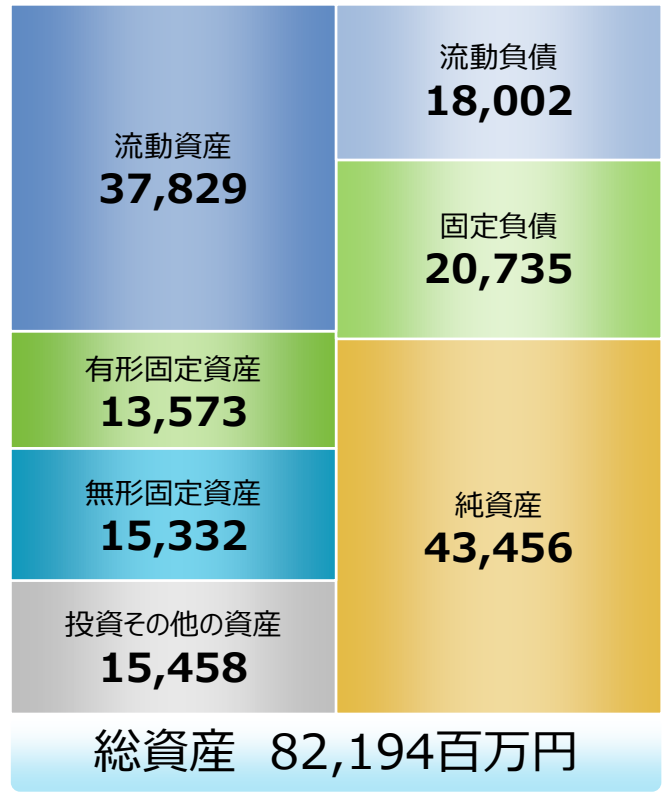
2017年度末

単位：百万円



2018年度末

単位：百万円



	総資産	流動資産	有形固定資産	無形固定資産	投資その他の資産	流動負債	固定負債	純資産
増減額	15,959	3,010	1,444	11,972	△469	3,787	11,275	896

2019年度予想（連結）

単位：百万円

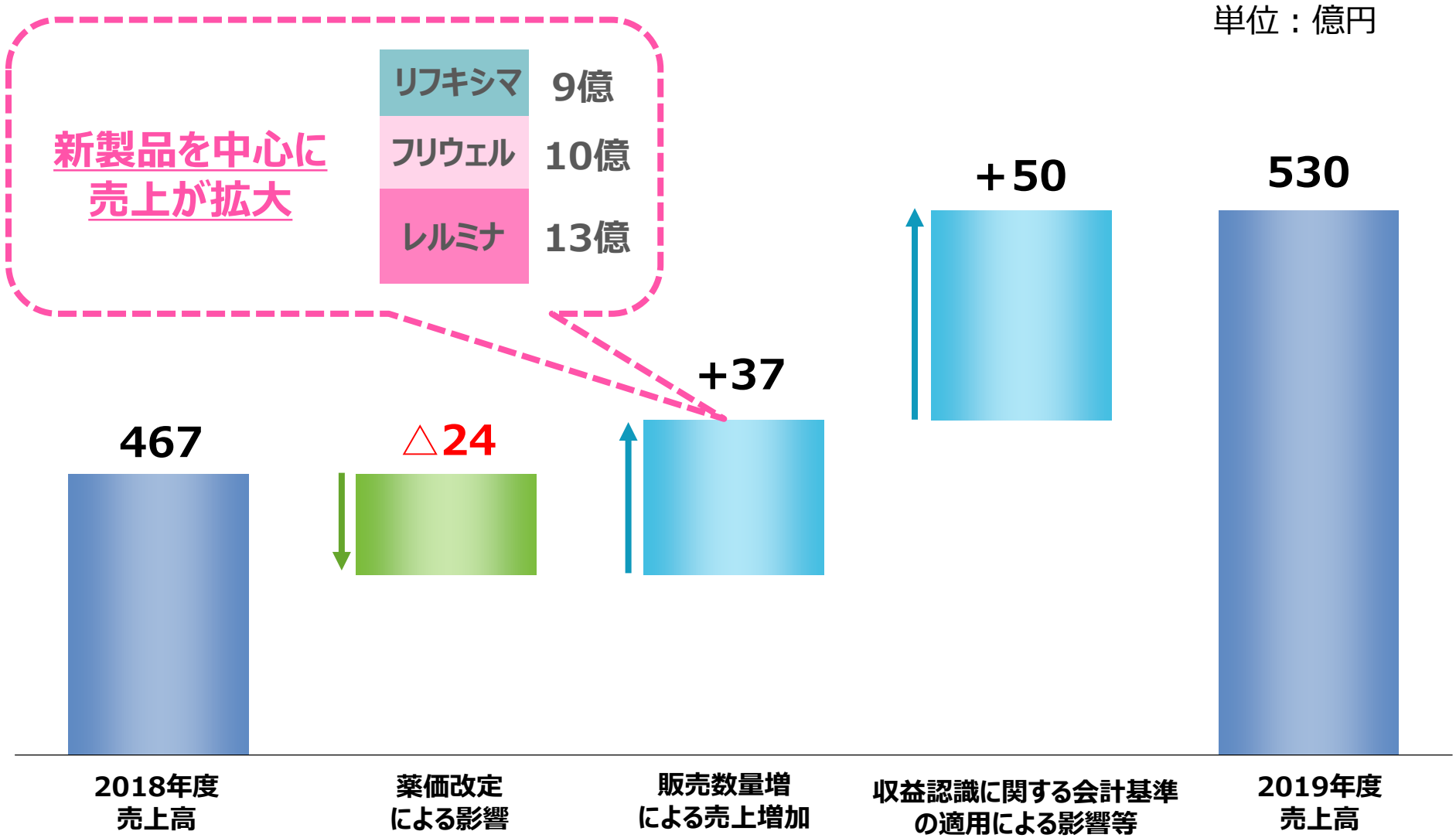
	2018年度 実績	2019年度 予想	対前年 増減額	対前年 増減率
売上高	46,706	53,000	6,294	13.5
営業利益	1,782	2,000	218	12.2
経常利益	1,980	2,100	120	6.1
親会社株主に帰属する当期純利益	1,744	1,000	△744	△42.7

要因

- 売上高は、「収益認識に関する会計基準」の適用の影響および、「レルミナ」をはじめとする産婦人科領域の新製品群や「リフキシマ」の売上拡大により、増収となる見込み。
- 利益面は、売上高の増加に伴い営業利益、経常利益は増益となる見込み。一方、親会社株主に帰属する当期純利益については、研究所の移転に伴う特別損失の発生を見込んでいることから、減益となる見込み。

2019年度の売上増加要因

単位：億円



2018年度総括
2019年度の取り組み

あすか製薬株式会社
代表取締役社長　山口 隆

本日の内容

- 2018年度の総括
- 2019年度以降の取り組み
  - リフキシマ
  - 産婦人科
  - 甲状腺
  - 湘南アイパークへの移転
  - 開発パイプライン
  - 今後の中期経営計画の見通し

2018年度総括

2018年度の主な成果①

- カンデサルタン類のシェア維持・数量ベースUP
- リュープロレリンのシェア維持・数量ベースUP
- 甲状腺疾患の継続的な啓発活動
- **リフキシマの着実な市場浸透**
- **産婦人科領域新製品の獲得と上市**



2018年10月4日　ノーベルファーマ株式会社より新発売
月経困難症治療剤
『ジェミーナ®配合錠』　コ・プロモーション



2018年12月14日　新発売
月経困難症治療剤
『フリウェル®配合錠LD・ULD「あすか」』　オーソライズド・ジェネリック



2019年3月1日　新発売
GnRHアンタゴニスト
『レルミナ®錠40mg』　武田薬品工業株式会社より導入

- **開発パイプラインの進展**（AKP-009、ウリプリスタル等）

2018年度総括

2018年度の主な成果②

■ 重要な投資



＜グローバルへの取り組み＞

NeoASKA Pharma Private Limited



＜生産体制の向上＞

いわき工場第4製剤棟（チラーヂン専用ライン増設）



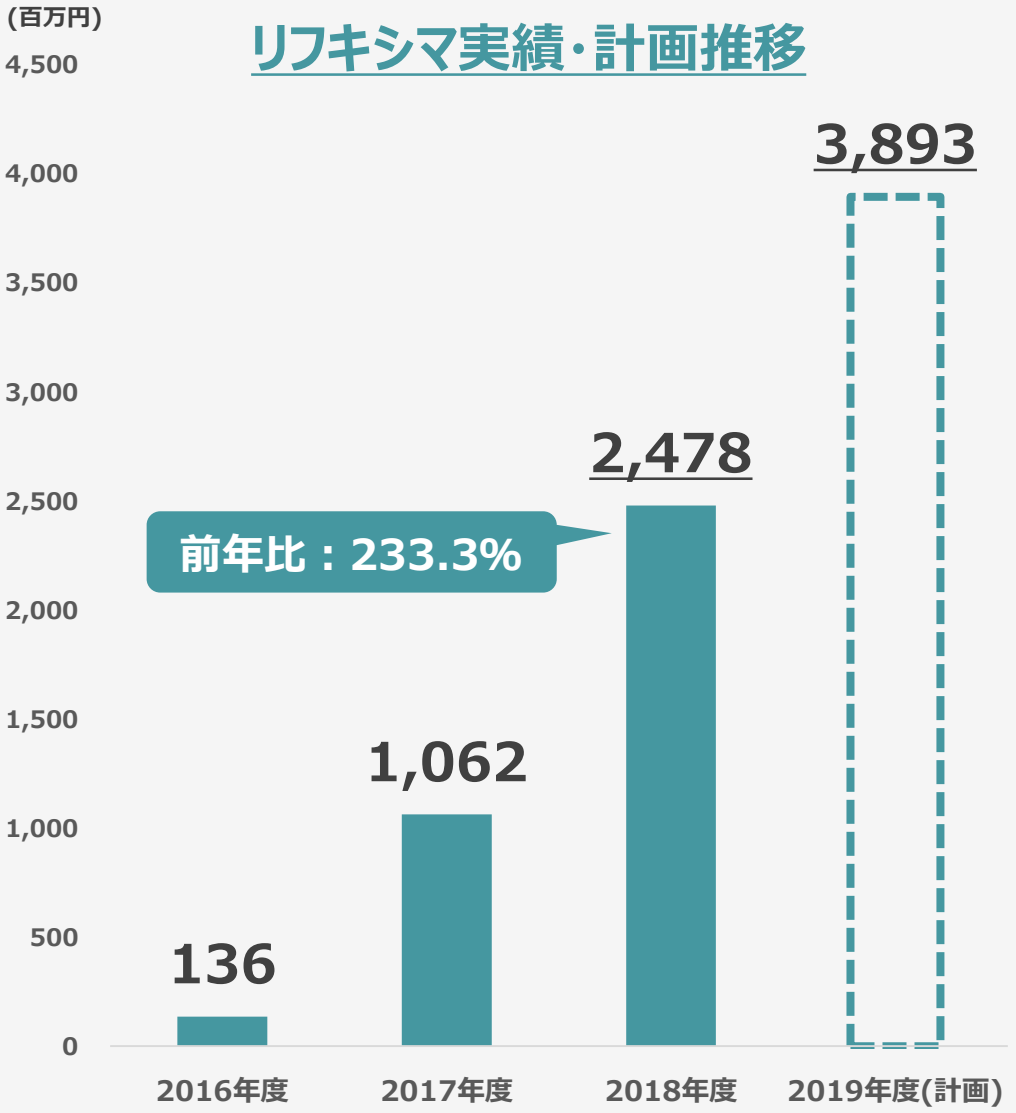
＜創薬研究機能の強化＞

湘南アイパークへの入居契約締結

リフキシマ：実績推移

※当社決算ベース

リフキシマ実績・計画推移



2019年度から「収益認識に関する会計基準」を適用

※数量ベース

発売以降の売上推移



リフキシマ：価値最大化に向けて

肝性脳症のKey Drugへ

1 既存抗菌薬からの切り替え

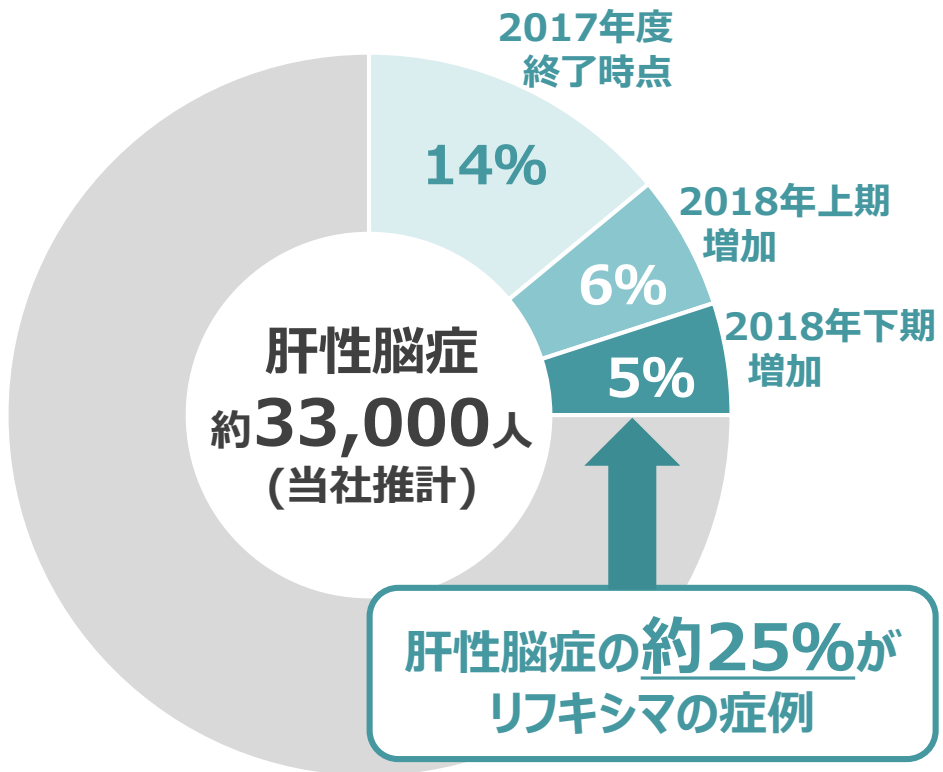
- 全例調査対象
- 流通管理品目

2 既存治療薬との併用

- 処方日数制限解除
- 全例登録解除

3 中心的薬剤の位置づけ

4 さらなる市場浸透を図る



肝性脳症治療薬の『1st line』を目指す

産婦人科：新製品

＜2018年度＞
3製品の上市、プロモーション開始

ジェミーナ®配合錠
※コ・プロモーション

オーソライズド・ジェネリック
フリウェル®配合錠LD・同ULD「あすか」

レルミナ®錠40mg
※子宮筋腫

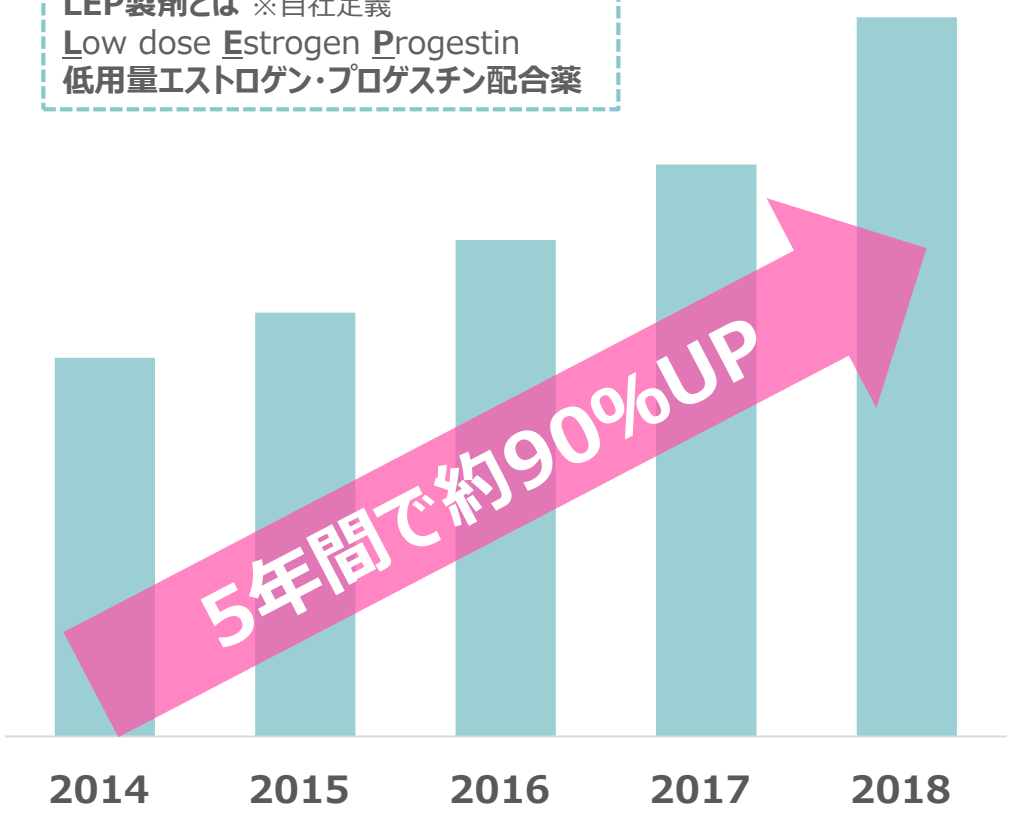
開発中
- ウリプリスタル（子宮筋腫）
- relugolix（子宮内膜症）

＜2019年度＞
・3製品の育成
・開発中製品の進展

産婦人科：ジェミーナ(LEP製剤)　※コ･プロモーション

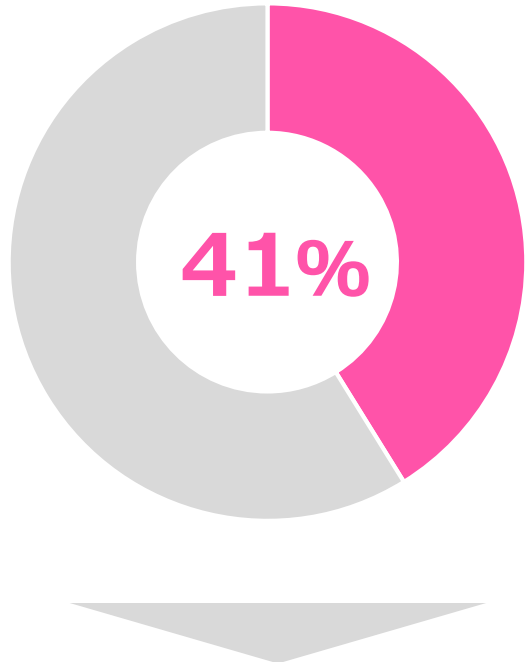
拡大しているLEP製剤市場　※錠数ベース

LEP製剤とは ※自社定義
Low dose Estrogen Progestin
低用量エストロゲン･プロゲスチン配合薬



Copyright © 2019 IQVIA.
JPM　2014年4月～2019年3月をもとに作成
無断転載禁止

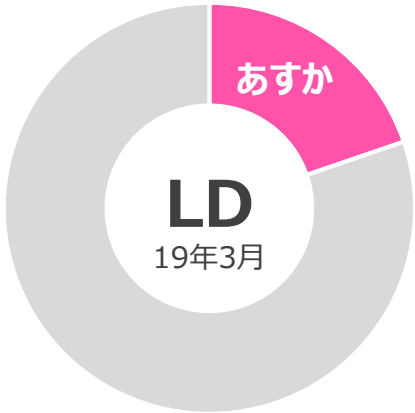
ターゲット先におけるジェミーナ採用率
(2018年10月発売～2019年4月)



2019年９月
処方日数制限解除

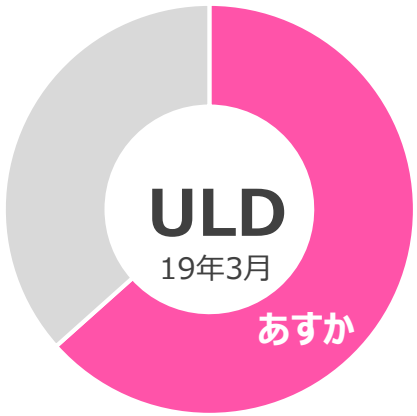
産婦人科：フリウェル(LEP製剤) オーソライズド・ジェネリック

規格別GE内シェア



19.7%

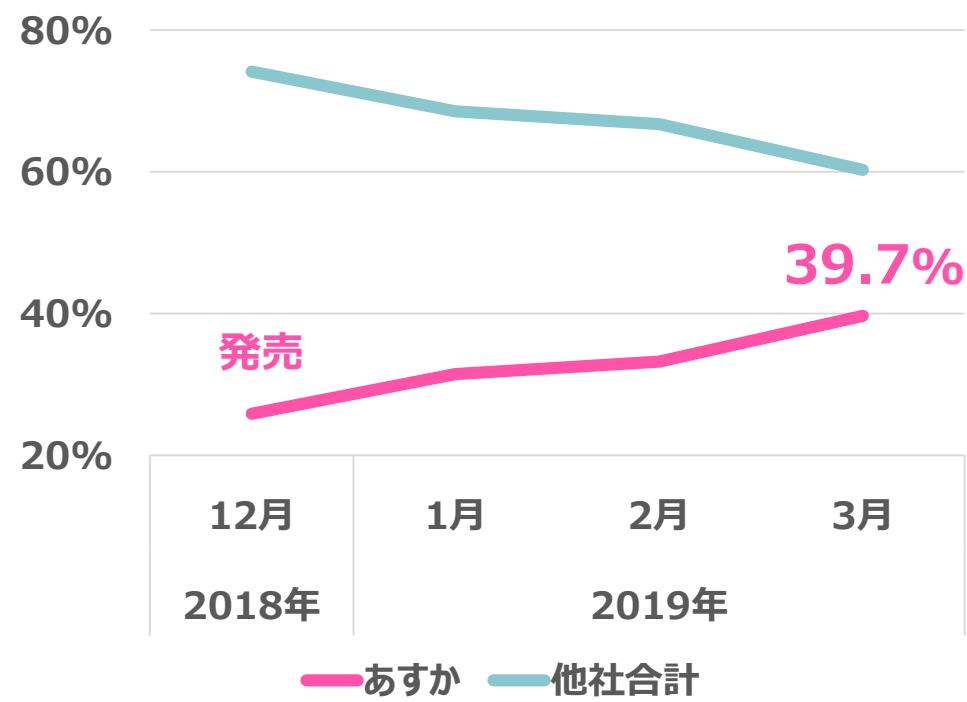
※後追いでの発売



63.4%

※他社同時発売

LD・ULD合算のGE内シェア



LD・ULD合算でGE内シェア

60%を目指す

Copyright © 2019 IQVIA.
JPM 2018年10月～2019年3月をもとに作成
無断転載禁止

産婦人科：レルミナ①

子宮筋腫治療剤の発売年

- 1988年 • ブセレリン酢酸塩(点鼻液)
- 1992年 • リュープロレリン酢酸塩(皮下注)
- 1995年 • 酢酸ナファレリン(点鼻液)
- 1999年 • ブセレリン酢酸塩(皮下注)
- 2019年 • レルミナ®錠40mg(経口)

20年ぶりの子宮筋腫治療剤

子宮筋腫治療の浸透



出典：日本医療データセンター

新しい選択肢を提供する

産婦人科：レルミナ②

レルミナの特性

国内初の1日1回経口投与のGnRHアンタゴニスト製剤

血清中エストラジオール濃度は投与1日以内に低下

過多月経を伴う子宮筋腫患者に対する効果(過多月経の改善)を評価した試験で、リュープロレリン酢酸塩に対する非劣勢が検証されている

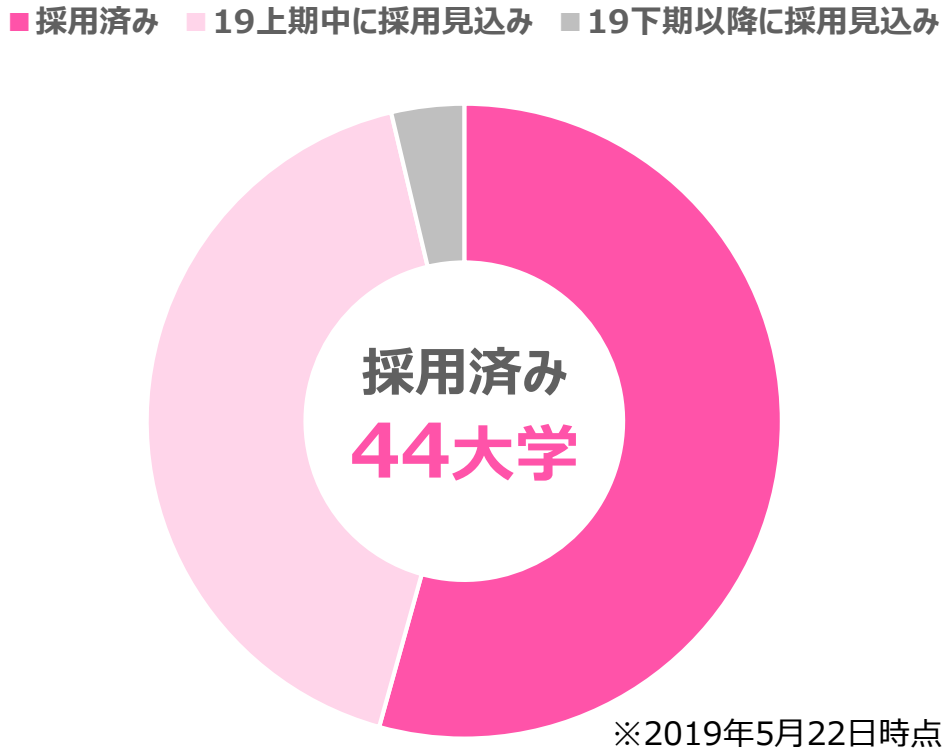
国内臨床試験において、子宮筋腫に基づく諸症状(過多月経、下腹痛、腰痛、貧血)の改善効果が確認されている

副作用

承認時までの国内の臨床試験では、225例中193例(85.8%)に臨床検査値の異常を含む副作用が認められており、主な副作用は、ほてり、不正子宮出血(各42.2%)、月経過多(21.8%)、頭痛(10.2%)、多汗症(8.9%)及び性器出血(6.7%)でした。なお、重大な副作用としてうつ状態(1%未満)と肝機能障害(頻度不明)が報告されています。

※詳細は添付文書をご参照ください

全81大学病院の採用状況



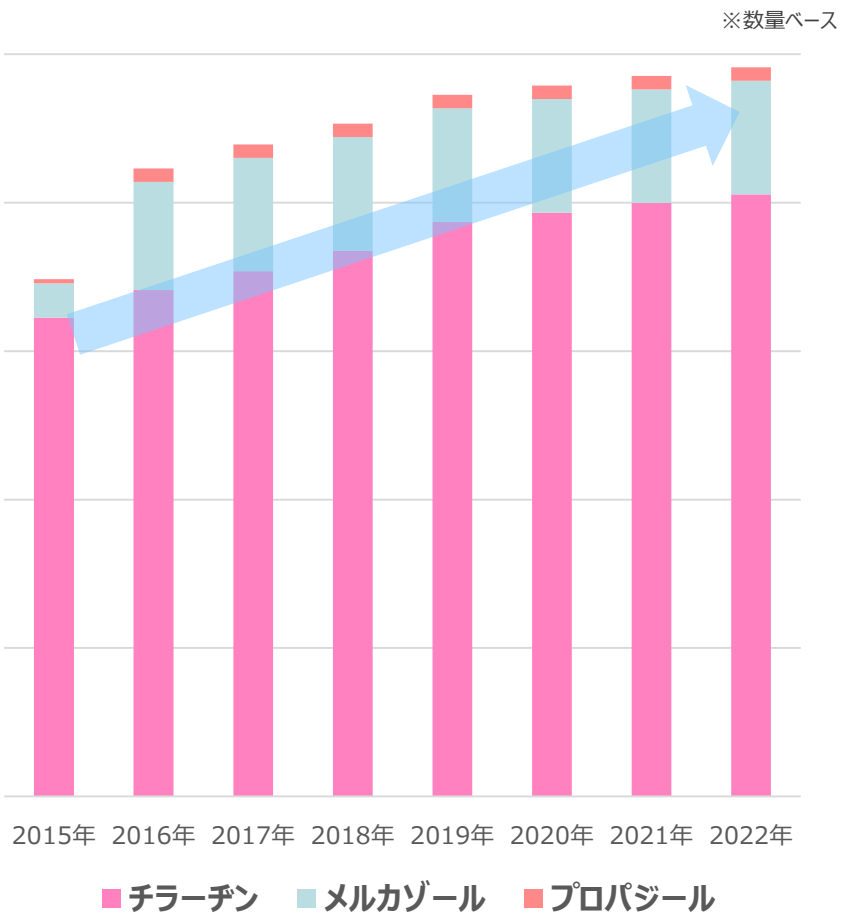
※2019年5月22日時点

医療ニーズに合致

甲状腺領域の取り組み

～2022年チラーヂン誕生100年にむけて～

甲状腺製剤の販売トレンド



疾患啓発

Butterfly Ribbon

日本甲状腺学会より

5月25日は世界甲状腺デー

甲状腺疾患啓発シンボル
『バタフライリボン』

当社は毎年5月を啓発期間とし、
社員がバタフライリボンバッジを着用

学会活動　他

<4/26>　第91回日本内分泌学会･スポンサードシンポジウム
<4/28>　第91回日本内分泌学会･Hot Topics
<5/25>　世界甲状腺デー
　　市民公開講座（5/19神戸、5/20京都、5/27大阪）
<6/2>　第85回臨床内分泌代謝懇話会
<6/28>　第30回日本内分泌外科学会･スポンサードシンポジウム
<9/1>　中日健康フェア
<10/28>　第51回日本甲状腺外科学会･モーニングセミナー
<11/23>　第61回日本甲状腺学会ランチョンセミナー
<12/1>　第86回臨床内分泌代謝懇話会
<2/9>　第35回甲状腺病態生理研究会

販売トレンドは上昇している

疾患啓発、学会活動を継続していく

湘南アイパークへの移転

目的

オープンイノベーションの加速による創薬機能強化

期待される効果

・多くの研究者や組織が集積し、産学官多様な研究者との活発な交流
・最新の機器、技術を利用し、先端の創薬研究を効率的に推進
・創薬支援ベンチャーやアカデミア発バイオベンチャー等のテナント企業との連携

移転時期

2020年度前半までに移転完了

開発パイプライン

研究開発の状況 （2019年5月時点）

前回からの変更点

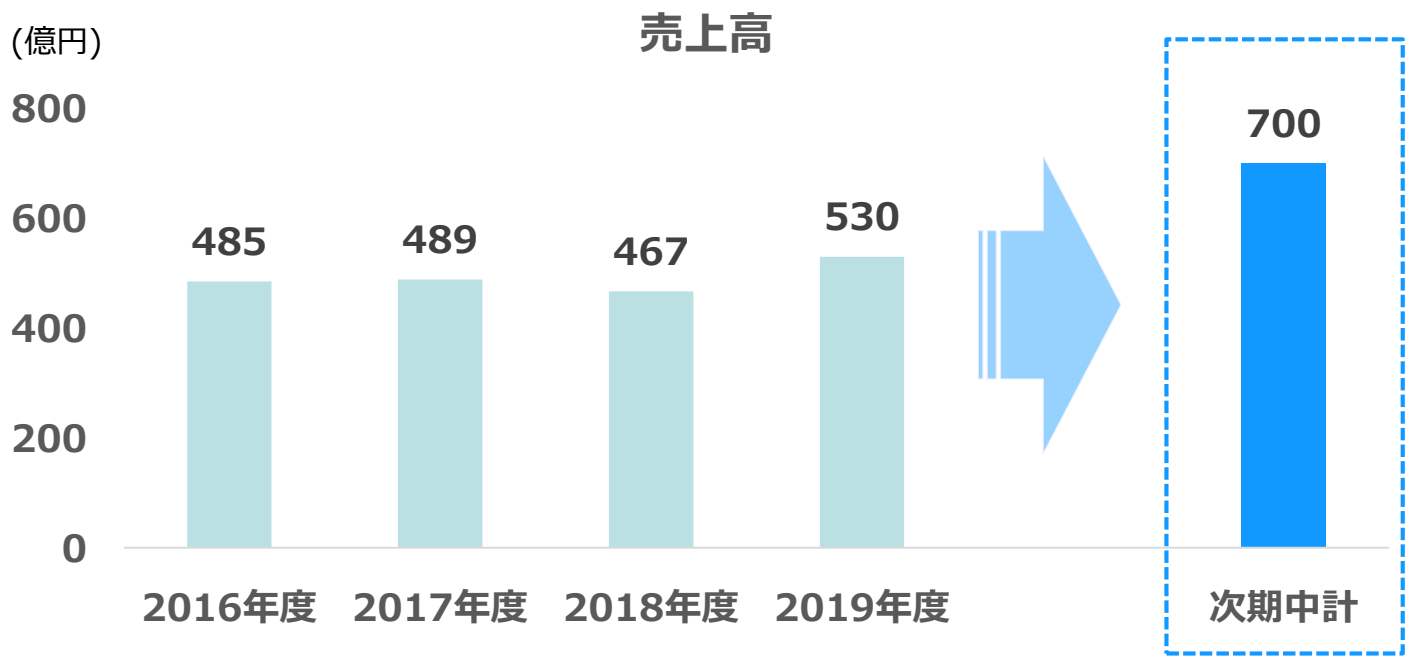
開発番号(一般名)／領域･効能	PhⅠ	PhⅡ	PhⅢ	申請	承認
AKP-015（レボチロキシンナトリウム） 粘液水腫性昏睡/重症甲状腺機能低下症		(PhⅡ、PhⅢ不要)		申請中	
CDB-2914（ウリプリスタル） 子宮筋腫					
TAK-385（relugolix） 子宮内膜症			PhⅢ開始		
AKP-501（フォリトロピンガンマ） 不妊症		PhⅠ終了			
L-105 (リファキシミン) クローン病		PhⅠ終了			
L-105 (リファキシミン) 肝性脳症（小児）	（準備中）				
AKP-009 前立腺肥大症		PhⅠ終了			

中期経営計画の見通し

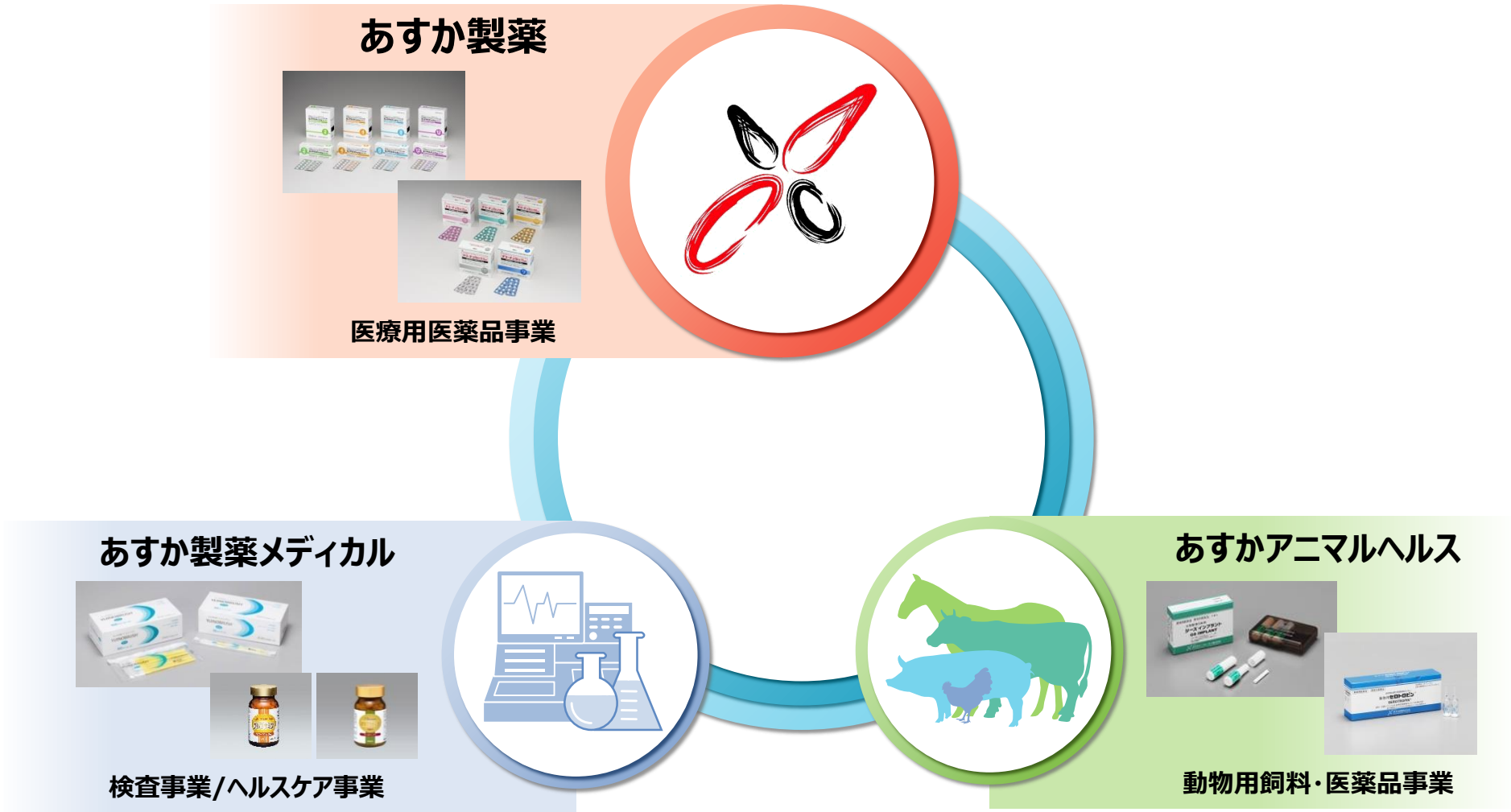
連 結	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 計画	次期中計 想定目標
売上高	485億	489億	467億	530億	700億
営業利益率	3.7%	5.8%	3.8%	3.8%	10.0%
ROE	7.8%	5.8%	4.1%	2.3%	8.0%

中期経営計画

連 結	2020年度 想定目標
売上高	700億
営業利益率	10.0%
ROE	8.0%



あすか製薬グループ


あすか製薬
医療用医薬品事業
あすか製薬メディカル
検査事業/ヘルスケア事業
あすかアニマルヘルス
動物用飼料・医薬品事業

先端の創薬を通じて、

人々の健康と明日の医療に貢献する

あすか製薬株式会社

ASKA Pharmaceutical Co., Ltd.

ご参考：「収益認識に関する会計基準」

1. 概要

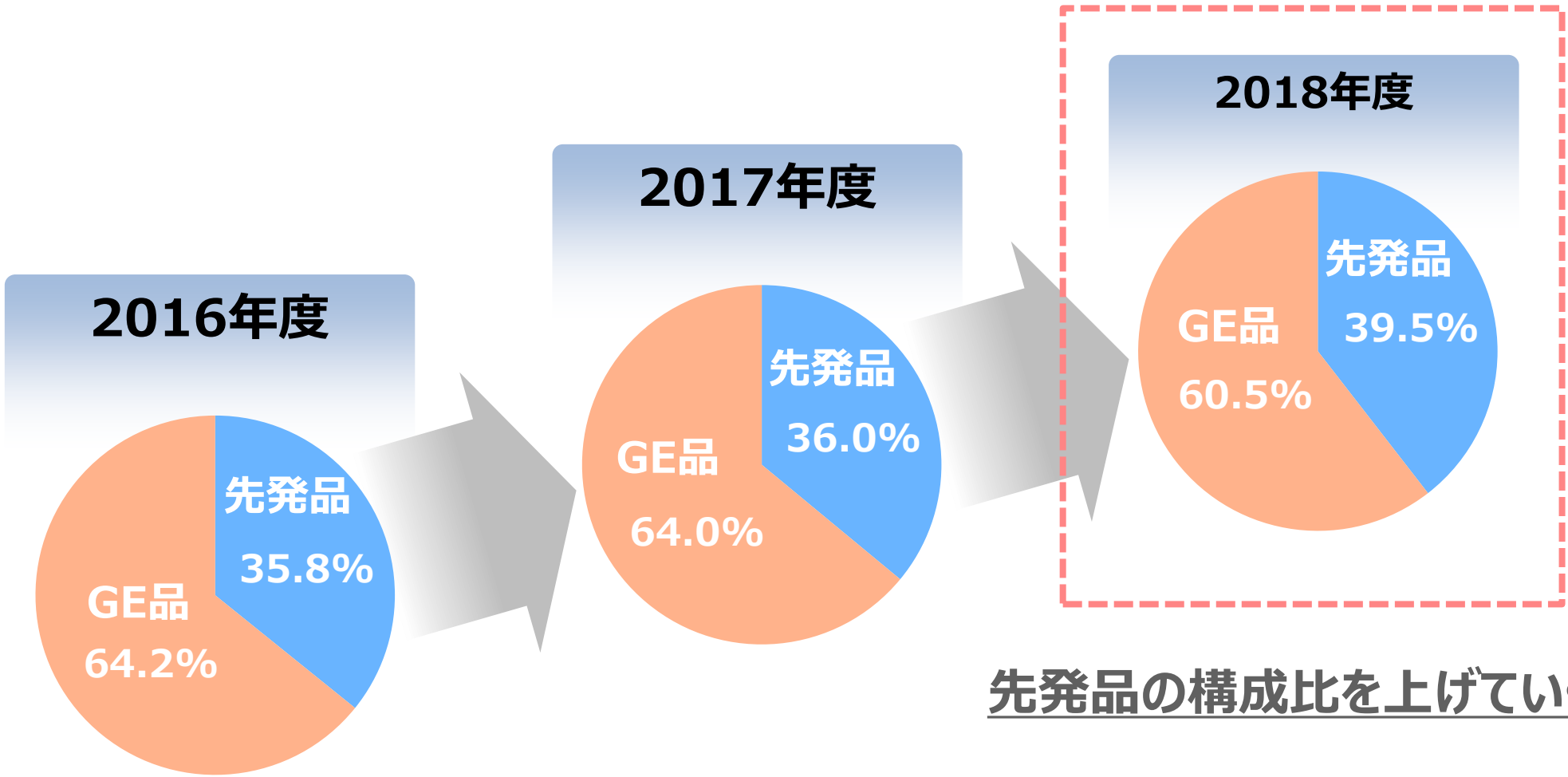
- 2018年3月30日に企業会計基準委員会より「収益認識に関する会計基準」（以下、「本基準」）が公表され、2021年度より強制適用されることとなりました（2018年度以降より早期が適用可能）。
- 従来、日本の会計基準では、収益認識に関する包括的な会計基準がなく、「商品の引き渡し」と「現金同等物の受領」を要件として売上計上するとしていました。しかし、国際会計基準（IFRS）との整合性をとるため本基準が公表され、適用されることとなりました。

  （主な内容）
  - 「所有権」「占有」だけでなく「重大なリスク」が顧客に移転した場合に収益を認識する。
  - 代理人取引（仲介等）は、売上高と仕入高を相殺し手数料のみが売上高となる。
  - リベート等は、販管費に計上するのではなく売上から控除となる。
- 当社においては、売上計上のタイミングを変更することで他社と同基準で売上高の比較が可能となること、また、2018年度よりERPを導入しており、本基準を適用する環境が整っていることから、早期適用に至りました。

2. 本基準の当社への影響

- 従来は武田薬品へ商品が着荷したタイミングで売上を計上しておりました。
- 本基準においては、武田薬品が特約店に商品を引き渡した時点で「重大なリスク」が移転したとみなされるため、本基準適用後の当社の売上計上のタイミングは、武田薬品が特約店に商品を引き渡した時となります。

ご参考：医療用医薬品の売上構成比

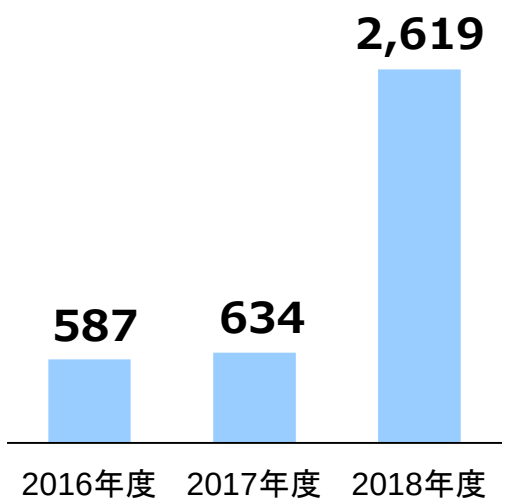


先発品の構成比を上げていく

ご参考：設備投資・減価償却費・研究開発費

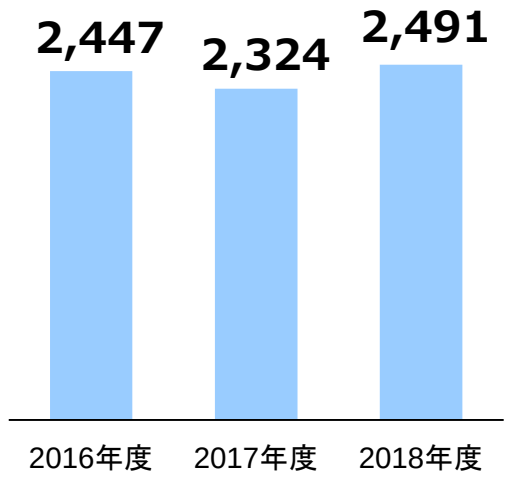
設備投資

（百万円）



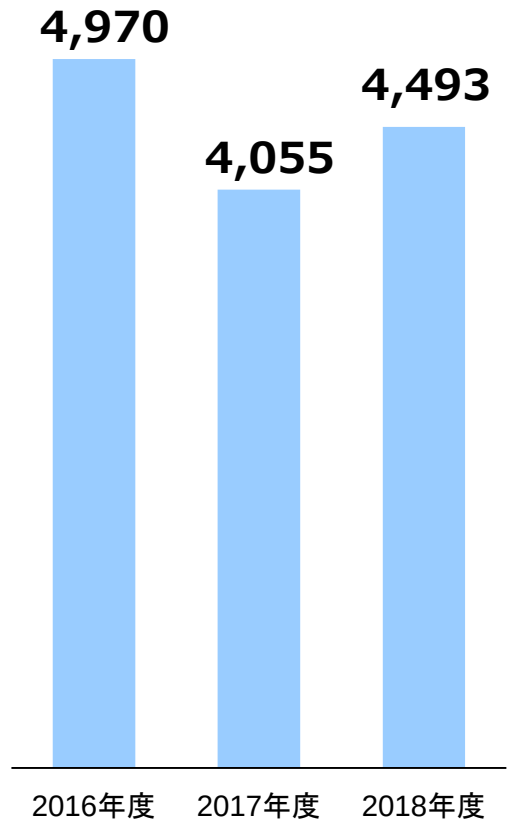
減価償却費

（百万円）



研究開発費

（百万円）



- この資料に含まれる将来の予測に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております
- したがって、実際の業績、開発見通し等は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います
- 医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません

お問い合わせ先

経営企画部

Tel　：03－5484－8366

e-mail：kouhou@aska-pharma.co.jp

